

**学校法人聖心学園
奈良芸術短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

奈良芸術短期大学の概要

設置者	学校法人 聖心学園
理事長名	平田 静太郎
学長名	平田 静太郎
A L O	谷口 嘉彦
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	奈良県橿原市久米町222

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
美術科		130
	合計	130

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	美術専攻	20
	合計	20

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

奈良芸術短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

日本人の心のふるさと「飛鳥の地」で「教育は環境なり」の信念のもと、造形的精神や技術を修得することによって、芸術性豊かな、品格ある社会人、専門家としての人材を育成することを建学の精神とし、この精神に導かれる教育理念として、「人間性回復と創造性開発の扉を開く」を掲げている。奈良飛鳥という歴史的背景に基づく、地域の特性をいかした精神や理念は当該短期大学ならではのものである。

建学の精神に基づく芸術教育のあり方の議論から、本科で基礎・基本の徹底を、続く専攻科で自己表現能力の育成を、そして終生作家としての研鑽をすとの考え方に立ち、それぞれの 2 年間で修了して、次のステップへ進むという教育を実践している。

明確な教育課程を持ち、その実施体制は適切である。教員の意欲は高く、学生は明るく挨拶を交わし、受講態度も熱心である。芸術系の短期大学らしく、教員の作品の発表の機会が多く、研究も充分に行われている。単に学内での授業にとどまることなく、地域との接触も積極的である。これらを支援する管理体制は現場に直接立つ、理事長の指揮の下、整備されている。財務の現状は、問題がない。

改革・改善については、建学の精神を含めた、教務部門、学生部門へと点検が進み、その結果、教職員の自主性や責任感が高まるなど、努力の結果が現れている。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 各コースの実習室は広くて充実しており、学生がのびのびと制作に従事できる環境である。図書館には、美術系の図書や資料は充実している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 市町村や企業からの依頼による、道路沿いの巨大壁画の制作や古代遺跡でのオブ

ジェの制作など、地域に向けた積極的な活動を行っている。

- スペインの大学との学生の訪問やその作品の相互展示などの交流を行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- ファカルティ・ディベロップメント (FD) およびスタッフ・ディベロップメント (SD) の全学的な実施体制の整備が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生への支援の充実、在学生への職業教育の充実、就職先の開拓などが望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生の就職支援体制の強化が望まれる。
- 特別推薦入試、自己推薦入試および社会人入試の合否判定に教授会の審議を要する。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究費の配分および研究環境の整備に配慮されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

日本人の心のふるさと「飛鳥の地」で「教育は環境なり」の信念のもと、造形的精神や技術を修得することによって、芸術性豊かな、品格ある社会人、専門家としての人材を育成することを建学の精神とし、この精神に導かれる教育理念として、「人間性回復と創造性開発の扉を開く」を掲げている。奈良飛鳥という歴史的背景に基づく、地域の特性をいかした精神や理念は当該短期大学ならではのものである。

この建学の精神の下に「人間性の練磨と知性の涵養に努め、一般教養と専門教育を行う」という教育目的を掲げ、随所に明記されている。学生に対しては、オリエンテーション、ガイダンスの折、学生必携、学生便覧などの配布物によって周知徹底が図られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神に基づく芸術教育のあり方の議論から、本科で基礎・基本の徹底を、続く専攻科で自己表現能力の育成を、そして終生作家としての研鑽を、との考え方に立ち、それも、それぞれの2年間で修了して、次のステップへ進むという教育を実践している。

教養科目で「明日香学」「飛鳥文化論」「生活文化史」「大和臨地研究」など特色ある科目が開設されており、選択の幅も広い。専門科目は、入学時より専攻コース別に履修し始めるため、専門性が高い。短期大学として芸術的特性の高い社会人を育成するという、目的に合致した内容となっている。

しかし、反面、現代の学生の多くが期待すると思われるニーズに対応する内容には不十分な面もある。全学的に授業改善への取り組みを推進するためFDおよびSDの全学的な実施体制の整備が望まれる。

シラバスは丁寧であり、学生は内容を理解し、授業を受ける態度は熱心であり、教員も内容を良く理解し、意欲的に指導している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は短期大学設置基準を上回る教員が配置されている。平均年齢は高く、ややバランスを欠くが、各教員は意欲的に学生指導に当たっており、それが学生に伝わっている。教育環境は充実している。とくに各コースの実習室は広く、学生がのびのびと制作に従事できる環境にある。機器備品は充実しているが、情報機器などに一部古いものがある。図書館は一般教養系図書がやや少ないものの、美術系専門図書を中心に蔵書・資料も豊富に整備されている。なお、図書検索用の機器備品や図書館間のネットワークの整備充実が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学生の授業評価の結果によれば学生の満足度は高い。受講態度も制作態度も真剣である。教員も意欲的に学生指導に当たっている。このようなことから教育目標の達成度は高く、教育効果もあがっている。なお、専門教育の成績評価状況を見ると「不可」の割合が高い授業科目があるので、検討されたい。

退学、休学、留年などの学生の割合がやや高く、終生作家を目指す学生の養成を教育目標としていることに加えて、在学生のニーズに応える必要がある。

評価領域Ⅴ 学生支援

美術系の大学を希望する受験生に対応するための多様な入試制度が実施されている。学校案内には、これらの入試制度を始め、建学の精神、目的、望まれる学生像、学習内容、学生生活など詳細な内容が丁寧に記述されている。入学後は、オリエンテーション、ガイダンス、学生必携などを通じて、分かりやすく学生生活について説明されている。学生生活への支援は、小規模校の特性をいかし、教職員と学生の良好なコミュニケーションの下に、学習支援、生活支援ともに丁寧に行われている。施設などキャンパス・アメニティへの配慮も充分である。進路支援については、平成18年度に「キャリア・サポート室」を設置し、就職指導の強化が図られた。今後さらに卒業生への支援の充実、在学生への職業教育の充実、就職先の開拓などが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

美術系の短期大学であり、教員の研究は、他の分野の研究とは質が異なり、作品制作と展覧会への出品などを研究の成果として、活発な活動が行われている。個人研究費、研究室、機器備品類などの研究条件は必ずしも充分ではないので、研究費の配分ならびに研究環境の整備に配慮されたい。優れた作品の制作過程が学生の前で展開さ

れることは、教育、研究の上では大きな成果を生むものと思われる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

大学の持っている知的資源を活用しての地域貢献の必要性は認識されており、公開講座、生涯授業、授業の公開などが活発に展開されている。また、市町村や企業からの依頼による、道路沿いの巨大壁画の制作や古代遺跡でのオブジェの制作など、地域に向けた積極的な活動を通じて地域貢献に寄与している。社会人の受け入れも積極的である。同様に、学生への社会的活動の指導も行われている。国際交流にも積極的であり、スペインのマドリッドコンプルセンテ大学美術部との学生の訪問やその作品の相互展示など双方向交流活動がなされている。教員の国際会議やシンポジウムへの参加もある。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は学長を兼務し、現場に立って陣頭指揮するなど十分にリーダーシップを発揮している。法人運営面では、理事会、評議員会は適正に開催され、監事は公認会計士と連携して適正に財務監査・業務監査を行っている。短期大学の運営面では、理事長・学長は副学長や各主任をリードしつつ、教授会、主任会（コース代表）が審議機関として適切に運営されている。事務部門については、規程類の未整備や事務処理のコンピュータ化の遅れなどやや問題があるが、その規模や事務処理は適切に行われ、職員は学生から信頼されている。人事管理についてはおおむね適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営については、経理諸規程に基づいて適正に行われ、公認会計士による監査においても重要な指摘事項はない。また、財務情報も公開されている。

財務体質については、学生数の減少による収入の減少がみられるが、法人として安定している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価の体制について規程や組織は整備され、改革・改善にも取り組んでいる。改革・改善については、建学の精神を含めた、教務部門、学生部門へと点検が進み、その結果、教職員の自主性や責任感が高まるなど、努力の結果が現れている。